

北陸地方整備局 松本砂防事務所
新潟県 糸魚川地域振興局
糸魚川市

記者発表

発表日時

平成25年2月15日
配布をもって解禁

「大規模土砂災害を想定した合同防災訓練」の実施について ～新潟県内で初めての学習型訓練～

国土交通省松本砂防事務所・高田河川国道事務所・新潟県・糸魚川市は、大規模土砂災害を想定した合同防災訓練を実施します。

本訓練では、新潟県内の姫川流域を対象に、豪雨を誘因とした大規模崩落の発生と天然ダムの形成、および複数の土砂災害の災害シナリオをベースとし、国・県・地元自治体が一堂に会した「学習型の合同防災訓練」を新潟県内で初めて行います。

「学習型訓練」とは、災害シナリオに沿って質疑応答していくため、各機関の災害対応等の流れが、わかりやすいのが特徴です。

各機関がそれぞれの対応を確認して行うことで、現状の課題を把握し、今後の危機管理対応能力の向上を図ることを目的に実施致します。

記

- 日時：平成25年2月20日（水）13：00～17：00
- 開催場所：糸魚川市消防本部3F会議室
（糸魚川市南寺島2-10-2）
- 参加団体：国土交通省北陸地方整備局 松本砂防事務所
国道交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所
新潟県（糸魚川地域振興局・防災局危機対策課・土木部砂防課）
糸魚川市
- 訓練詳細：別紙資料による

資料配付先(新潟県庁内)

- ・県政記者クラブ
- ・新県政記者クラブ

問合せ先

北陸地方整備局 松本砂防事務所
電話：0263-33-1115（代表）
副所長（技術） 地中 浩
調査課長 石川 一栄

学習型訓練について

1.1 学習型訓練とは

ファシリテーター（司会進行役）が災害シナリオに沿って質問を投げかけ、訓練参加者に回答を求める質疑応答型の訓練である。

ロールプレイング（RP）訓練との違い

- ・ 司会進行役の状況説明（シナリオ進行）を聞くことによって参加者全員が災害対応行動等の流れを共有・理解できる
→シナリオが見えないRP訓練では、参加者の経験値によって理解度が異なる
- ・ 各機関の回答を全員が同時に聞くことによって、他機関がどのような対応をしているのか理解できる
→機関ごとにブースで区切られ、自らの対応行動に追われるため、RP訓練では、他機関の動きが分からない
- ・ 時間軸にとらわれないため、場面を区切った訓練ができ、その都度、補足や解説を行うことにより理解度を向上できる
→時間軸に沿って進行するRP訓練では、開始してから終了するまで一連の進行を中断することができない



司会進行役が災害状況(シナリオ)を説明しながら訓練参加者に質問

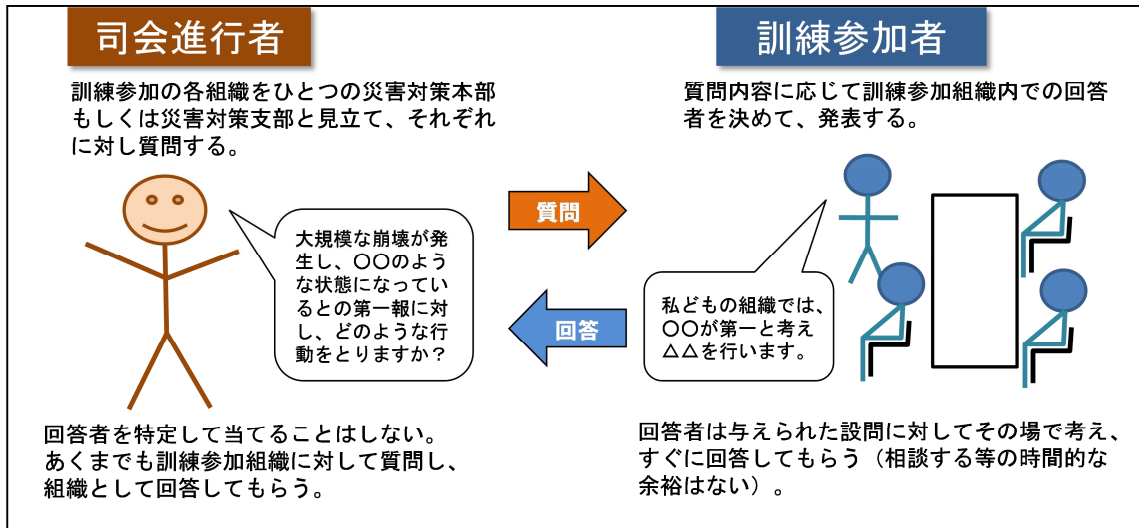


指名された機関が状況を踏まえて対応すべき行動を口頭で回答

1.2 学習型訓練の進行方法

■基本的な進行

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、想定した災害シナリオに則して状況付与を行った上で、「進行者」は「訓練参加機関」に、その対応について様々な「質問」をし、「訓練参加機関」は「回答」（相談しても良いが時間的余裕は与えない）する形式で進行する。このように、逐次対応する形で行うので、実時刻に基づいた進行とはならない。



■進行者の役割

「進行者」は、場面に応じて他機関にも質問したり、各ステージの最後で内容の総括を行ったりする。

